「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について（答申）」（概要）

諮問内容

「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」

答申の構成及び概要

1　町田市及び自由民権資料館を取り巻く環境（本文2～3ページ）

町田市基本方針に基づく「行政経営改革プラン」等の計画や新型コロナウイルス感染症拡大による“新しい生活様式”の普及、新町田市史の編さんを求める請願、「町田デジタルミュージアム」の構築、野津田町・小野路町周辺の環境について整理しています。

2　自由民権資料館の概要（本文4～6ページ）

自由民権資料館の設立経過や設置目的、現状及び課題についてまとめています。

3　これからの自由民権資料館について（本文7～11ページ）

今後の町田市立自由民権資料館の目指すべき姿を3つに整理し、
方向性と具体的な取組を提案するとともに、運営体制について整理しています。

（1）目指すべき姿

①自由民権運動の学びを現代（地域）に活かす

＜方向性＞

全国で3館しかない自由民権を冠した施設であるというブランド力を活かし、
市内外に研究成果を発信していくことで、地域の魅力を高めるとともに、
市民の郷土への愛着や誇りにつなげていく。

＜具体的な取組＞

- 市内小・中学校の社会科や総合学習で“町田の自慢”として自由民権運動を学ぶことが出来るような教材を作成する。
- 人権問題をはじめとするＳＤＧｓや国際化社会など、年代を問わず多くの人にとって身近なテーマを切り口とし、自由民権運動の今日的意義を伝える。

②町田市域の歴史を継承する

＜方向性＞

歴史史料を収集・整理・保管し、そして調査・研究をしっかりと行うことで、
町田市域の歴史を継承していく郷土資料館としての役割を担う。

＜具体的な取組＞

✦貴重な史料の散逸を防ぐとともに、大学との連携を積極的に構築しながら史料の活用にまで繋げていく。

✦町田市域の歴史を学べる郷土資料館でもあることを広く知ってもらえるよう、自由民権資料館の改称、あるいは愛称やキャッチコピーを検討する。

✦子どもたちに地域の歴史に慣れ親しんでもらうため、学校の授業やカリキュラムなどと連動させながら、教育現場のデジタル環境を活用した取組を検討する。

✦町田の歴史を学ぶきっかけとなるよう、オリジナル動画の展示室での上映やＳＮＳによる発信、題材の漫画化などを検討する。

✦市内に点在する歴史資源を結び付けた各地域のフットパスの作成やバスルートの発信など、全市域の歴史資源を対象とした取組を展開する。

✦「町田デジタルミュージアム」をはじめとする新たな資源と既存の事業が上手く活かされ合うような取組を検討する。

③歴史をとおして人や学びを循環させる

＜方向性＞

市民の歴史学習の拠点として、一人ひとりが自分に合ったかたちで歴史を理解し、楽しく学べるような環境を整備していく。自由民権資料館で学んだ成果を活かす場につなげていくことで、人や学びが循環するしくみを構築する。

＜具体的な取組＞

✦オンライン講座の実施や、母国語に翻訳しやすい展示解説文のデジタル化など、ＩＣＴ化を推進する。

✦生涯学習センターや市民文学館などを拠点として施設で活動している人たちの知識や経験が横につながり活かされるよう、施設間で回遊性を生むための取組を検討する。

✦自由民権資料館で学んだ人が起点となり、人から人へ歴史が継承されていくようなしくみを整える。

✦人材育成を目的とした講座を実施し、習熟度に応じて出張講座や地域の学びの場での講師や案内係を依頼できるような体制を整える。

（2）運営体制

✦これまでに自由民権資料館として築き上げてきた専門性をしっかりと継承していくことが何よりも大切。

✦広報業務などの一部の業務を委託することは、学芸員が専門性の高い業務に注力する時間を確保できることにつながり、より良い効果を生み出す可能性がある。

✦運営体制の検討にあたっては、経済的効率化の視点だけでなく、導入例をしっかりと検証しながら慎重に進めていく必要がある。